

正誤表

(内容変更のお知らせ)

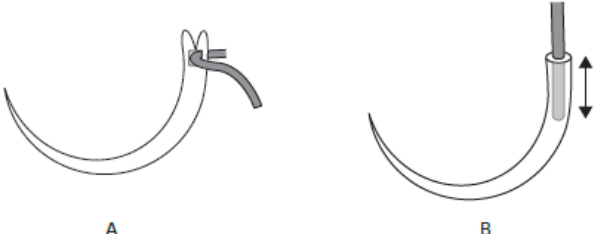
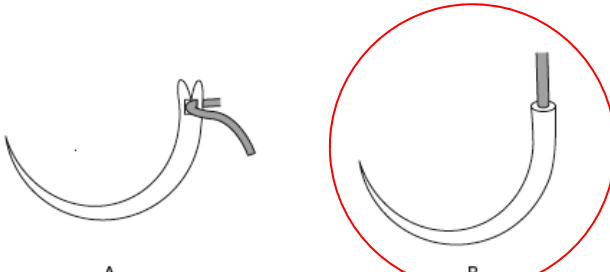
手術手技研究会 編『イラストでよくわかる！ 秘伝の手術手技 83』の第1版第1刷 (2015年4月16日発行) に、不正確な記載がございました (P103)。下記のとおり、第2刷 (2016年3月31日発行) で訂正しましたので、謹んでお詫び申し上げます。

2016年4月1日

金原出版株式会社

記


●P103 図1 (Bのイラストを修正し、その解説を変更)

第1刷 [旧]	 <p>A: Spring needle with a curved handle and a hook-like tip. B: Control release needle with a straight handle and a hook-like tip, shown with a vertical double-headed arrow indicating its length.</p>	<p>〈図1〉針の種類</p> <p>A 弾機針 パネ孔に糸を上から押しつけることより、糸を傷つけずに孔へと通せる。</p> <p>B コントロールリリース針 無傷針ともいう。針と糸がはじめからついているので、糸を通す手間を省くことができる。太さが一定であるため、組織を貫通する際、キズが付きにくいのが特徴。針と糸を強く引っ張ることで、針を抜くことができる近年、主流の針として使われている</p>
↓		
第2刷 [新]	 <p>A: Spring needle with a curved handle and a hook-like tip. B: Control release needle with a straight handle and a hook-like tip, circled in red.</p>	<p>〈図1〉針の種類</p> <p>A 弾機針 パネ孔に糸を上から押しつけることより、糸を傷つけずに孔へと通せる。</p> <p>B 無傷針 針と糸がはじめからついているので、糸を通す手間を省くことができる。太さが一定であるため、組織を貫通する際、キズが付きにくいのが特徴。</p>

(*次ページへ)

●P103 A professor's advice (解説を加筆)

第1刷
[旧]




A professor's advice

コントロールリリース針は
まっすぐ抜くのが正解

コントロールリリース針から針だけを抜く場合、位置関係は針（術者）、糸（助手）、臓器（患者）の順番になるようにし、針の軸が糸に対してまっすぐになるように抜く。まっすぐであれば容易に抜けるが、針が斜めになった状態で抜こうとすると、まっすぐの状態と比べて1.5倍の力が必要となる。



第2刷
[新]



A professor's advice

コントロールリリース針は
まっすぐ抜くのが正解

無傷針のなかでも、針と糸を引っ張ることで針のスウェッジ部分から糸が抜ける「コントロールリリース針」と呼ばれる針糸がある。とくに結節縫合などでの使いやすさから最近では主流となっている。

コントロールリリース針から針だけを抜く場合、位置関係は針（術者）、糸（助手）、臓器（患者）の順番になるようにし、針の軸が糸に対してまっすぐになるように抜く。まっすぐであれば容易に抜けるが、針が斜めになった状態で抜こうとすると、まっすぐの状態と比べて1.5倍の力が必要となる。

以上